



[趣旨説明・講演]

日本語教育センター長
異文化コミュニケーション学部教授
丸山 千歌 氏

○丸山 本日のコーディネーターを務めます丸山です。どうぞよろしくお願いたします。

早速ですが、本日のシンポジウムのテーマ、「グローバル化時代の言語教育を考えるーグローバル・コンピテンス育成の視点からー」の企画趣旨をご説明いたします。【スライド①-1】

今、ご覧いただいている情報は、今年度4月に本学のホームページで公開されたものです。本学は2022年9月から新しい外国人留学生の受け入れ制度、RSP事業を立ち上げます。【スライド①-2】 立ち上げるのは2つのプログラムです。こちらの画面の上の赤字になっておりますNEXUS ProgramというのとPEACE Programというものです。どちらも入学時点で十分な日本語能力を求める従来の正規学部留学生の受け入れとは違う仕組みです。NEXUS Programのほうは入学時点において、日本語能力試験N3程度の学生を受け入れて、本学の教育課程で日本語能力の向上を図っていくプログラムです。日本語トラックのプログラムです。PEACE Programのほうは入学時点で日本語能力を求めません。英語による授業だけで教育課程を構成するプログラムです。スライドの下の赤字部分を見ていただきたいのですが、この新制度は、本学の教育課程にふさわしい学力を持ち、世界のさまざまな国や地域からの多様な文化的背景を持つ外国人留学生がキャンパスに集い、日本人学生とともに学んでいく環境の実現を目指しています。日本語教育センターとしては、大学生の生活に必要な日本語能力を飛躍的に向上させるという、これを非常に大事なミッションだと捉えて、現在、鋭意準備を進めているところです。【スライド①-3】

先ほど韓先生からご紹介がありましたように、本センターは RSP 事業の立ち上げを見据えまして、2018 年度から 4 つの企画を立ててシンポジウムで理解、検討を進めてきました。こちらのスライドにある通り、2018 年度に 1 つ、2019 年度に 2 つ、2020 年度にまた 1 つというように議論を深めてまいりました。【スライド①-4】

簡単に、この 4 企画から学んできたことを整理してまいりたいと思います。全部で 3 点でございます。1 つは、こちらのスライドでご覧いただいているように、世界のさまざまな国や地域からの多様な文化的背景を持つ外国人留学生を知ることでした。中国、ロシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、タイ、モンゴルの先生方を招きして、現地の日本語教育事情、それから日本の留学に際しての生徒さんたちの期待や課題を学びました。本学の学部の先生方の留学生への学力、それから日本語力への期待は当然高いのですが、そのことをあらためて認識しました。またこの高いハードルを非常に優秀な学習成果をおさめて乗り越えていく留学生たちが確実に、そして少なからずいるということも確認いたしました。【スライド①-5】

2 つ目は、経済学部や異文化コミュニケーション学部の留学生サポート活動、学部をまたいだ協働企画などを学ぶとともに、日本語非母語の学生と、共に学ぶ、協働することから、日本語母語の学生たちが学んでいる、ということも確認しました。【スライド①-6】

3 つ目は留学生の受け入れは、大学の教育に何をもたらすかということです。2 点目と関連するのですが、共に学ぶ、協働することから、日本語母語の学生たちが学んでいる、では、いったいどのような力を育てているのかという話になりますが、ここでキーワードになるのがグローバル・コンピテンスでした。【スライド①-7】

ここで改めて 2022 年度から受け入れる新しいタイプの留学生たちがどんな環境で学ぶのかを整理してみたいと思います。先ほどご紹介した 2 つのプログラムのうちの 1 つ、NEXUS Program の学生たちは日本語トラックに入っていきます。ですので、主に日本語を使って生活することになりますが、高い英語力を持って入ってきますので、英語を使う場面も当然あると思います。また母語が多様ですので、キャンパスで今まで以上にいろいろな言語が聞こえてくるということになるかもしれません。

また、PEACE Program のほうは英語トラックに入ってきますので、主に英語を使い、日本語を学んでいきます。入学後は、日がたつにつれ、だんだん日常生活の中で日本語を使う場面が増えていくのではないかと思います。NEXUS の学生たちと同様に、母語は英語以外の言語の可能性が多分にございます。

こういった学生たちと、日本人学生と共に学ぶとき、学びを媒介する重要な要素は言語です。その言語は、日本語、英語、そしてほかのさまざまな言語があるだろうということを、キャンパス中にあるだろうということを想像していただけましたでしょうか。こういった発想から、本日のテーマは、言語教育を通じたグローバル・コンピテンスの獲得ということになりました。

そこで、外国語教育研究センターと日本語教育センターが共同で企画を進めてまいりました。このような形で外国語教育センターの先生方と協働できる、そういった幸せも私たちは噛みしめているところです。

本日はグローバル・コンピテンスという言葉が何度も出てまいります。その定義、どうしようかという話を私たちは準備段階でしておりました。例えば、先ほどの前のスライドのところに URL をお示ししているのですが、こういったところで、これは PISA のグローバル・コンピテンスなのですから、見ることができます。今回は、登壇者それぞれが、自分たちが思い描いているグローバル・コンピテンスを語っていきましょう。そういうこととなっております。

【スライド①-8】

それでは、本日ご登壇される 4 人の先生をご紹介します。お一人目は、「グローバル・コンピテンスの育成と中国語教育」というタイトルで、森平崇文先生がご登壇されます。お二人目は「グローバル化教育を目指す—社会における今後の同一語教育の目指す姿」ということで、ドイツ語ご担当の坂本真一先生がお話しくださいます。それから、3 人目の方は「外国語教育の新しいかたち—社会認知的視点から見る学習評価」ということで、英語をご担当されている三島雅一先生がお話しくださいます。4 人目の登壇者が日本語教育センターからです。「今、そしてこれから必要とされるグローバル・コンピテンス—高等教育機関における日本語教育から考える」ということで、日本語教育センター員の池田伸子先生が担当されます。

来年の今頃は、ただいまご紹介いたしました RSP 事業がスタートして、本学は新しいタイプの留学生を迎えています。そのことを楽しみにしながら、本日は

ローバル・コンピテンスの育成の視点を持った言語教育について話し合っていきたいと思います。ですので、どうぞよろしくお願いいたします。私の趣旨説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。【スライド①-9】

○任 丸山先生、ありがとうございます。それでは、講演にまいります。本日、5名の先生方にご登壇いただきます。先ほど丸山先生からご紹介ありましたけれども、改めて先生方をご登壇順にご紹介します。

まず、外国語教育研究センター教授、森平崇文先生。そして外国語教育研究センター准教授、坂本真一先生。外国語教育センター准教授、三島雅一先生。異文化コミュニケーション学部教授、池田伸子先生。以上4名の先生方にご講演いただいた後は、全体討議を行います。その際、コメンテーターとして、一般財団法人国際開発センター研究顧問、長尾真文先生にお話いただきます。各先生方のご講演の後には質問の時間を短くする予定であります。ここでは事実確認程度のご質問をお受けしたいと思います。また、先生方のご講演が終わった後に、全体討議の時間をとっておりますので、その時間にまとめてご質問いただくのでも結構です。

では、はじめに森平崇文先生にご講演いただきます。ご講演のタイトルは、先ほど丸山先生からご紹介ありましたけれども、「グローバル・コンピテンス育成と中国語教育」です。森平先生、よろしくお願いいたします。

【スライド①-1】

グローバル化時代の言語教育を考える ーグローバル・コンピテンス育成の視点からー 趣旨説明

立教大学日本語教育センターシンポジウム2021

2021年10月23日

立教大学 日本語教育センター長

丸山千歌

【スライド①-2】

「2022年9月より新しい外国人留学生受け入れ制度「Rikkyo Study Project」を開始」(RSP事業)

- ・入学時点において日本語能力試験N3程度の学生を受け入れ本学の教育課程で日本語能力の向上を図るNEXUS Program
- ・入学時点で日本語能力を求めず英語による授業のみで教育課程を構成するPEACE Program

「これにより、海外の高校から日本語学校等を経由せずに、日本の大学へ進学するコースをこれまで以上に取り込みます。今回の新制度により、本学の教育課程にふさわしい学力を持ち、世界の様々な国や地域からの多様な文化的背景を持つ外国人留学生がキャンパスに集い、日本人学生とともに学んでいく環境の実現を目指します。」

<https://www.rikkyo.ac.jp/news/2021/04/mknpps000001lqg4.html>

【スライド①-3】

正規学部留学生の日本語力の多様性の広がり
－これまでの選抜方法に加えて…－

現行の外国人入試に加え「新しい受け入れ」へ

- ①日本語力強化プログラム（JLPTN3程度で入学） NEXUS
- ②英語で学位を取得するプログラム PEACE



日本語教育面での課題…大学生生活に必要な日本語力の飛躍的な向上

【スライド①-4】

RSP事業を見据えた議論-
シリーズ「正規学部留学生受け入れの新時代」

・2018年度

「正規学部留学生受け入れの新時代－多様な留学生との学びは大学をどう変えるのかー」（中国、ロシア、インドネシア、ベトナム）

・2019年度

- ①「多様な日本語力の学部留学生の受け入れと大学での学び」
- ②「正規学部留学生受け入れの新時代－タイ・フィリピンの中等教育を学ぶー」（フィリピン、タイ）

・2020年度 ベトナム、モンゴル、インドネシア

「正規学部留学生受け入れの新時代－インクルージョン、コラボレーションの実現に向けた日本語教育ー」

【スライド①-5】

シリーズ「正規学部留学生受け入れの新時代」 4企画から学んできたこと

① 世界の様々な国や地域からの多様な文化的背景を持つ外国人留学生を知る（2018、2019、2020年度）

- ・入学前の日本語教育事情を知る
- ・留学に際しての課題を知る（寮、奨学金、関係構築）
- ・学びについての学部の期待は高く留学生が超えるべきハードルは高いが、優秀な学習成果を修めている留学生たちが確実にいる

【スライド①-6】

シリーズ「正規学部留学生受け入れの新時代」 4企画から学んできたこと

② 学内の取り組み、そこから見えること（2019）

『多様な日本語力の学部留学生の受け入れと大学での学び』
観光学部、経済学部、異文化コミュニケーション学部、経営学部の事例

- ・サポート活動（浜崎 2020、巖 2020）
- ・学部の教育目的に照らして、多様な日本語力の留学生の受け入れを積極的に行う（浜崎 2020）
- ・共に学ぶ、協働することから、日本語母語の学生たちが学んでいる（韓2020、巖2020、浜崎2020、上西2020）

【スライド①-7】

シリーズ「正規学部留学生受け入れの新時代」 4企画から学んできたこと

③ 留学生の受け入れは、大学の教育に何をもたらすか
ダイバーシティ⇒インクルージョン、コラボレーション（2020年度）

共に学ぶ、協働することから、日本語母語の学生たちが学んでいる
どのような力を育てているのか？... グローバルコンピテンス

例： <https://www.oecd.org/pisa/innovation/global-competence/>

【スライド①-8】

日本語母語学生とともに学んでいく環境

- NEXUS Program 日本語で、その他の言語で
- PEACE Program
主に英語で → 英語と日本語、その他の言語で

学びを媒介する重要な要素...言語

本日のテーマ：言語教育を通じたグローバルコンピテンスの獲得

【スライド①-9】

本日のテーマ：言語教育とグローバルコンピテンス

- ①グローバル・コンピテンス育成と中国語教育（FLER中国語 森平先生）
- ②グローバル化を目指す社会における今後のドイツ語教育の目指す姿（FLERドイツ語 坂本先生）
- ③外国語教育の新しい形：社会認知的視点からみる学習評価（FLER英語 三島先生）
- ④ 今、そしてこれから必要とされるGC 高等教育機関における日本語教育から考える（日本語教育センター 池田先生）